

【不随意運動 2016 年 6 月 15 日】

国家公務員共済組合連合会 大手前病院神経内科 須貝 文宣

不随意運動 (involuntary movement; IVM) とは、文字通り意識せず不随意に出現する目的に沿わない運動を指す。しかし、その発症機序は不明の点が多く診断・治療に難渋する場合が多い。

抗てんかん薬などの内服治療は概して効果が限定的であり、ボツリヌス毒素治療も局所性ジストニアに適応がほぼ限定されている。近年、IVM やパーキンソン病への定位的脳手術が普及し、大脳基底核および視床に対する深部脳刺激術 (deep brain stimulation; DBS) や凝固術が行われる症例が増えつつある。

IVM の原因はさまざまであるが、外見上よく目立つ所見であり、詳細に観察してどのようなタイプに該当するかを判断することが最も重要である。次に、病歴、その他の神経学的異常所見、画像・電気生理学的検査等を勘案して診断を詰めていくことになる。

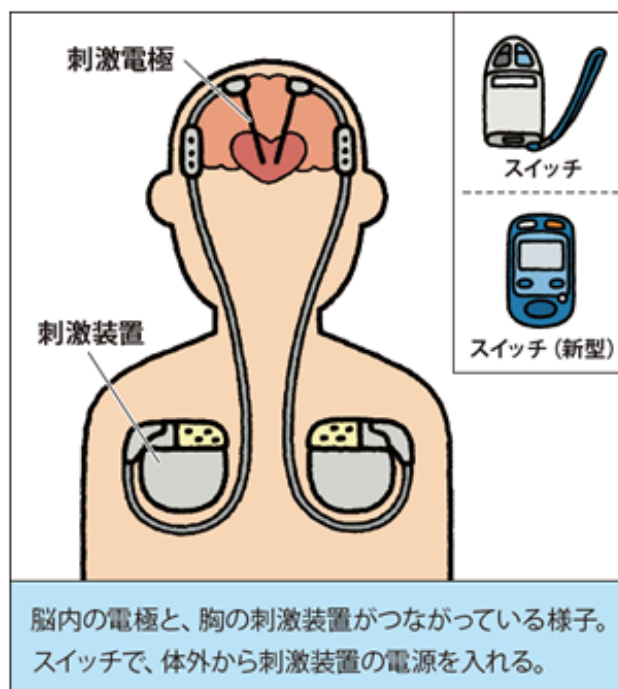
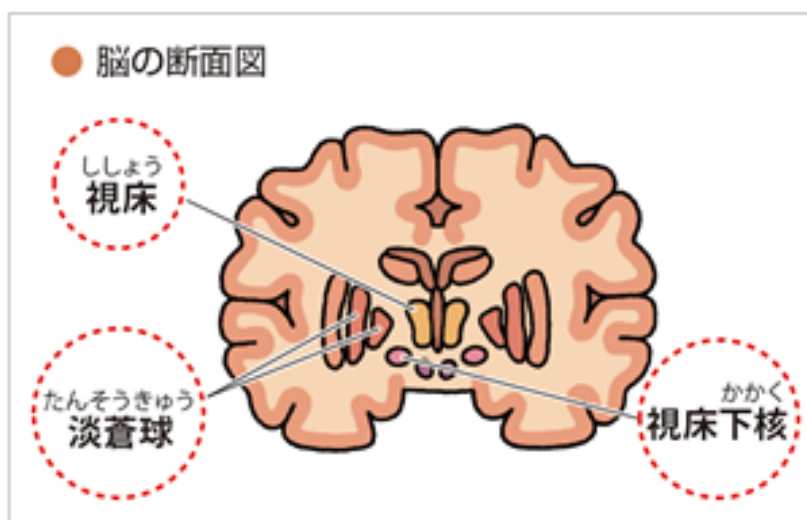
当日は、ジストニア・振戦・舞踏運動など種々の IVM 症例の動画を供覧し、その症候・原因・治療効果の多様性について概説したい。

《現症のとり方》 (例)

- 1) 安静状態の観察：患者が意識しない状態
- 2) 誘発条件下での観察：一定の姿勢や精神的負荷など
- 3) 観察内容：下記に注意して記載する
 - 出現部位： 左右、四肢 (遠位、近位)、体幹、頭頸部、顔面
 - 動きの形： ぴくつく、ふるえ、よじり、くねらせる
 - 動きの速さ： 早い、緩徐
 - 常同性： 同じパターンを繰り返す、1 回ごとに異なるか
 - リズム： 規則的か (1 秒に何回か)、不規則か
 - 出現・誘発条件： 安静、姿勢時、運動時、精神的緊張、睡眠
- 4) その他の神経学的所見
- 5) 精神症状・精神科受診歴など

《DBS の主な適応疾患》

	主な薬物治療	DBS 刺激部位
本態性振戦	β ブロッカー	視床（凝固術含む）
ジストニア	抗コリン薬、抗てんかん薬、 抗不安薬	淡蒼球内節
パーキンソン病	L-dopa、ドパミンアゴニスト	視床下核、淡蒼球内節、 視床



(図は「パーキンソン.jp」より転載)